

# 岡山県感染症週報 2017年 第6週 (2月6日～2月12日)

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令中です

## ◆2017年 第6週(2/6～2/12)の感染症発生動向(届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第4週 2類感染症 結核 5名(60代 女 1名、70代 女 1名、80代 男 1名、90代 女 2名)  
5類感染症 急性脳炎 1名(乳児 女)
- 第5週 2類感染症 結核 1名(70代 男)  
5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(60代 男)  
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1名(70代 男)
- 第6週 2類感染症 結核 1名(70代 男)  
5類感染症 ウイルス性肝炎 1名(20代 男)  
侵襲性肺炎球菌感染症 1名(幼児 男)  
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1名(50代 男)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で2,376名(定点あたり37.86 → 28.29人)の報告があり、前週より減少しました。
- 咽頭結膜熱は、県全体で35名(定点あたり0.50 → 0.65人)の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で182名(定点あたり4.83 → 3.37人)の報告があり、前週より減少しました。

### 【第7週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が74施設でありました。(2月13日～2月16日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で2,376名(定点あたり37.86 → 28.29人)の報告があり、2週連続で減少しましたが、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は、『インフルエンザ警報』を発令中であり、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(47.75人)、備北地域(31.00人)、備中地域(26.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中!](#)』をご覧ください。
2. **咽頭結膜熱**は、県全体で35名(定点あたり0.50 → 0.65人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域(2.83人)、備中地域(0.71人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で182名(定点あたり4.83 → 3.37人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、備北地域(6.25人)、美作地域(5.17人)、備前地域(4.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2016/2017年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

## 3月1日(水)～3月7日(火)は「子ども予防接種週間」です。

4月からの入園・入学に備え、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう。

我が国では、毎年3月1日～7日を「子ども予防接種週間」とし、予防接種への関心と予防接種率の向上を図るため、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県でも、この期間内に、趣旨に賛同した協力医療機関では、ワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、協力医療機関によっては土曜日、日曜日など、通常の診療時間外の接種も行っています。

[「子ども予防接種週間」について](#) (日本医師会ホームページ)

[岡山県内の協力医療機関一覧表](#) (岡山県医師会ホームページ)

## 流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★★★★★	RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↗	★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↘	★
突発性発疹	↘	★	百日咳	↗	★
ヘルパンギーナ	↘		流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↗	
マイコプラズマ肺炎	↗	★	クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加    ↗：増加    →：ほぼ増減なし    ↓：大幅な減少    ↘：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減    増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし    ★：わずか    ★★：少し    ★★★：やや多い    ★★★★：多い    ★★★★★：非常に多い

## 今週の注目感染症

### 咽頭結膜熱

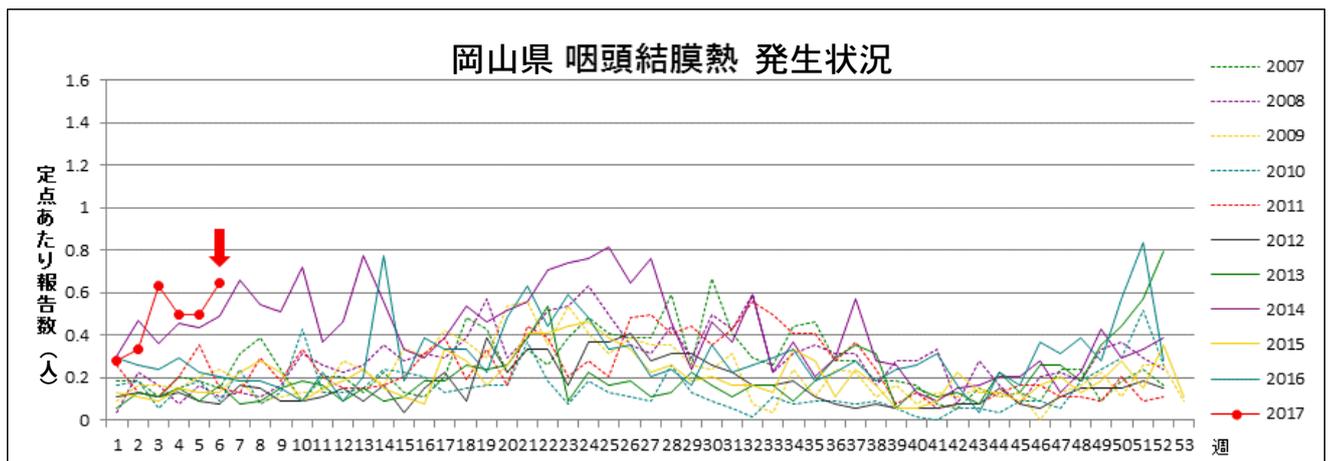
咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによる小児の急性感染症です。通常夏季を中心に流行する疾患で、プールでの感染が多く見られることから、プール熱とも呼ばれますが、最近では冬季にも多く報告されています。通常5～7日の潜伏期間を経て発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やになどの症状がみられます。症状は3～5日程度持続した後、回復します。ウイルスに対する治療薬はなく、対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要となることもあります。

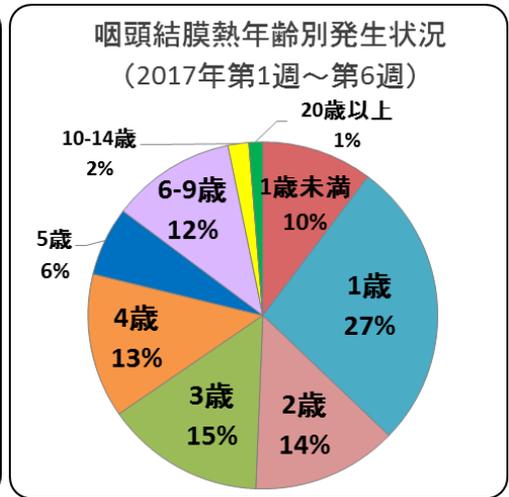
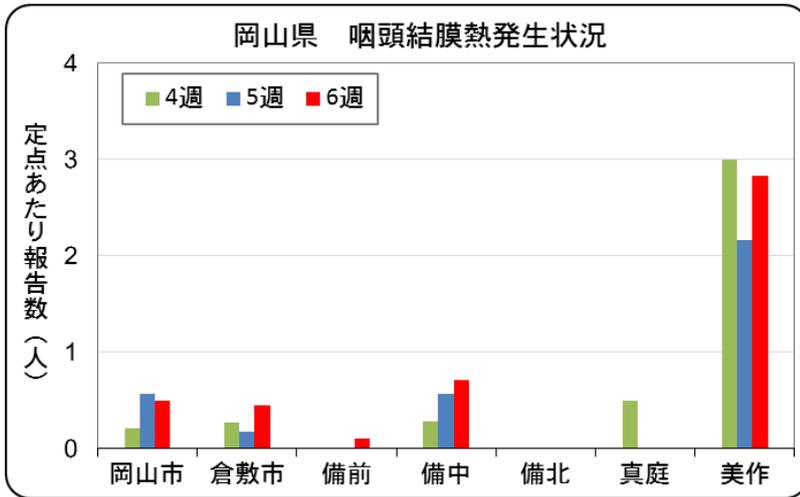
感染経路は主に飛沫感染、あるいは手指を介した接触感染です。タオル、ドアノブ、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを介しても感染する場合があります。

予防法は、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。消毒法として、手指に対しては流水と石けんによる手洗い、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムを用います。アデノウイルスに対して、消毒用エタノールの消毒効果は弱いとされています。

[咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所）](#)

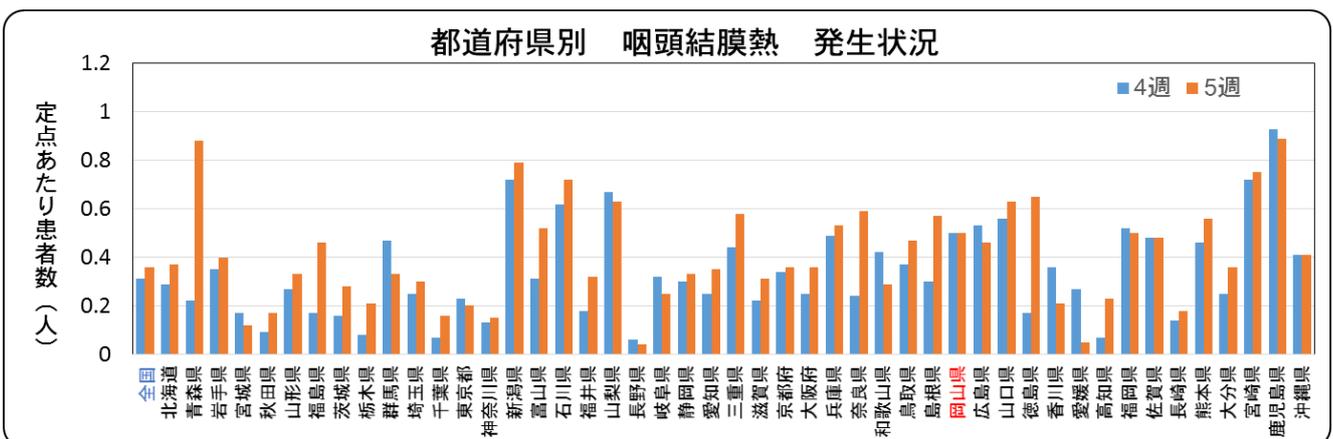
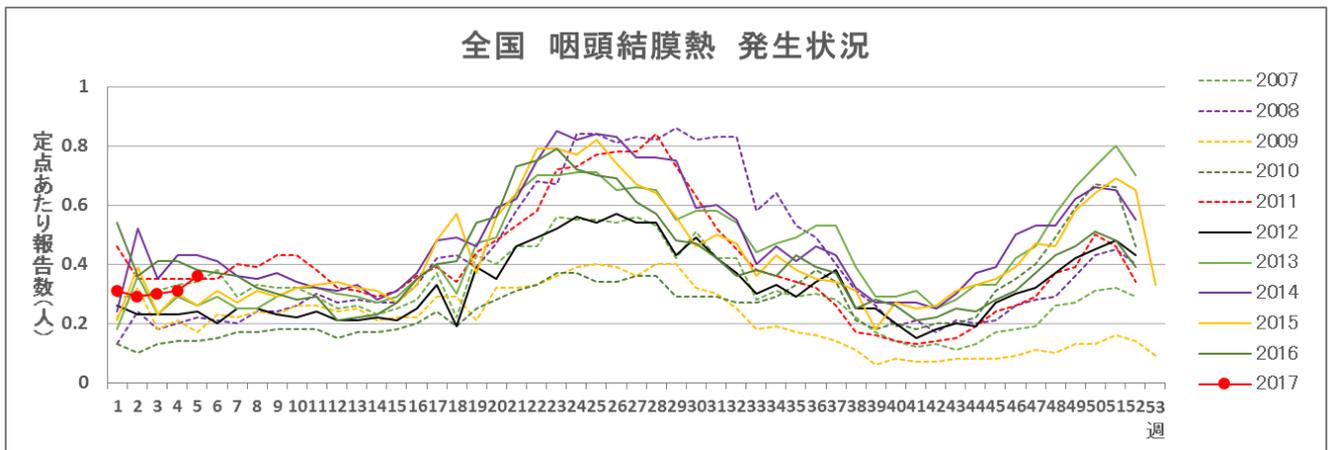
### 【岡山県の発生状況】





咽頭結膜熱は、県全体で35名(定点あたり0.50 → 0.65人)の報告があり、前週より増加しました。第3週(1/16～1/22)以降、過去10年間の同時期と比較して最も高い状態で推移しています。地域別では、美作地域(2.83人)、備中地域(0.71人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に美作地域では、高いレベルで推移しており、発生レベル3が継続しています。年齢別では、1歳27%、3歳15%、2歳14%の順で高くなっており、5歳以下の乳幼児が全体の85%を占めています。

#### 【全国の発生状況】



#### 国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2017年第5週

全国の第5週(1/30～2/5)の発生状況は、定点あたり報告数が0.36人であり、前週(0.31人)よりわずかに増加しました。都道府県別では、鹿児島県(0.89人)、青森県(0.88人)、新潟県(0.79人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。中国・四国地方では、徳島県(0.65人)、山口県(0.63人)、島根県(0.57人)の順となっており、近隣県でも多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

## インフルエンザ週報 2017年 第6週 (2月6日～2月12日)

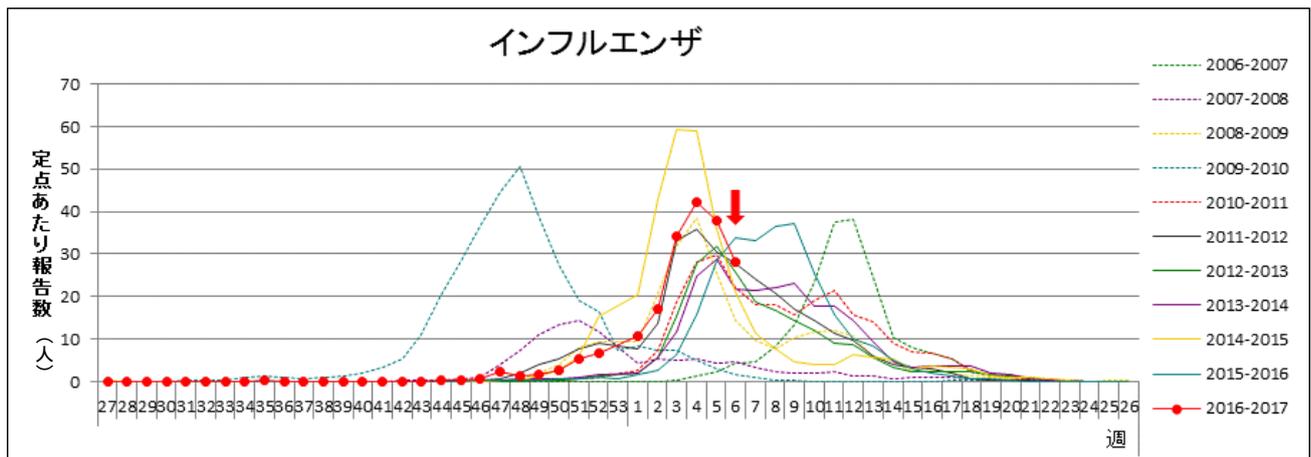
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で2,376名(定点あたり28.29人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が94施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者14名の報告がありました。

## 【第7週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が74施設でありました。(2月13日～2月16日)



インフルエンザは、県全体で2,376名(定点あたり37.86→28.29人)の報告があり、2週連続で減少しましたが、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は、『インフルエンザ警報』発令中であり、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市(47.75人)、備北地域(31.00人)、備中地域(26.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。美作地域(26.50人)を除く全ての地域で患者の減少がみられましたが、県内全域で大きな流行が継続しています。

第6週の学校等の臨時休業は、94施設から報告がありました。前週(171施設)より減少したものの、第7週速報でも、すでに多くの施設から報告されているため、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校を中心とした集団の中での感染に注意してください。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みでは、マスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザQ&A\(厚生労働省\)](#)[平成28年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

## ◆インフルエンザは流行が継続しています。 さらなる感染予防に努めましょう。

## 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

## 【 かかったかな? という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- \* 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

# 1. 地域別発生状況

前週からの推移 (単位: 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2376	↓	備 中	患者数	323	↓
	定点あたり	28.29			定点あたり	26.92	
岡山市	患者数	493	↓	備 北	患者数	186	↓
	定点あたり	22.41			定点あたり	31.00	
倉敷市	患者数	764	↓	真 庭	患者数	73	↓
	定点あたり	47.75			定点あたり	24.33	
備 前	患者数	272	↓	美 作	患者数	265	→
	定点あたり	18.13			定点あたり	26.50	

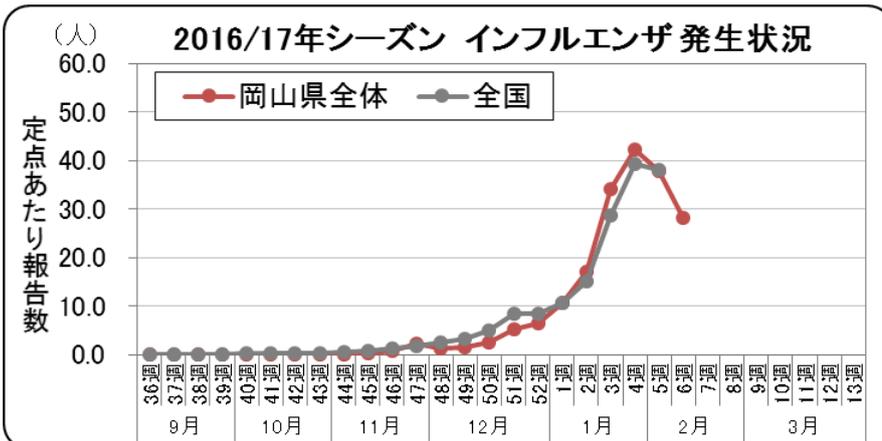
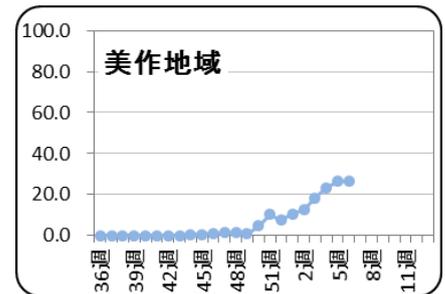
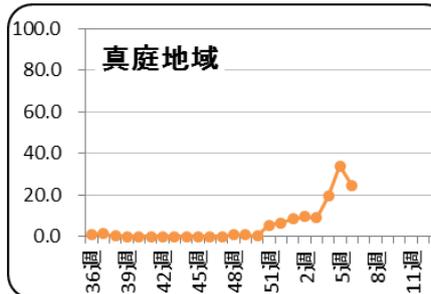
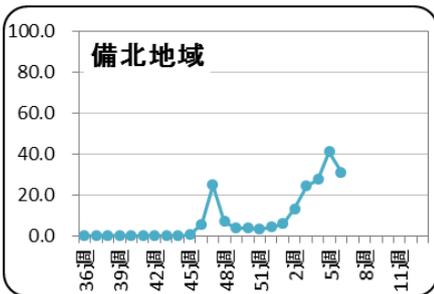
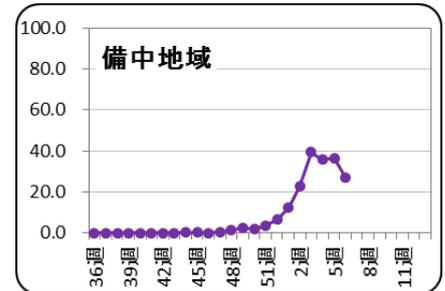
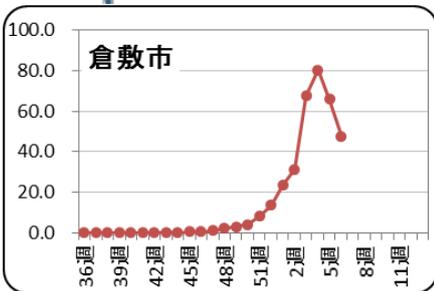
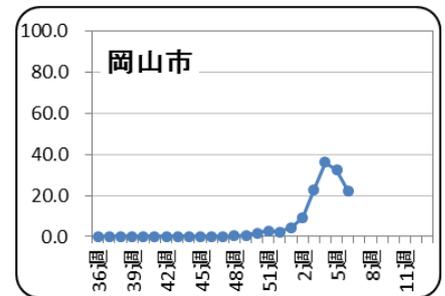
【記号の説明】 前週からの推移  
 ↑ : 大幅な増加    ↓ : 大幅な減少    → : ほぼ増減なし    ↘ : 減少  
 大幅 : 前週比 100%以上の増減    増加・減少 : 前週比 10~100%未満の増減

## インフルエンザ感染症マップ



### <インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

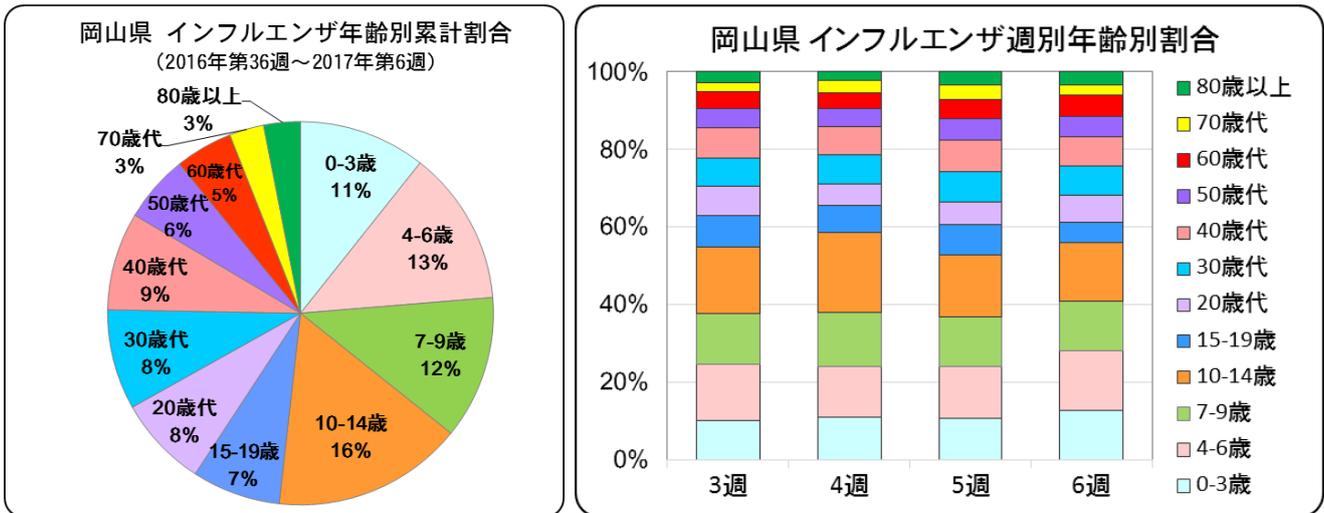


全国集計第5週(1/30~2/5)速報値によると、全国の定点あたり報告数は38.14人となり、前週(39.41人)よりわずかに減少しました。都道府県別では、福岡県(55.03人)、宮崎県(54.02人)、愛知県(51.44人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、19道府県では前週の報告数よりも増加しました。

[インフルエンザの発生状況について](#)  
 (厚生労働省)

## 2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、10-14歳 16%、4-6歳 13%、7-9歳 12%の順で高くなっています。

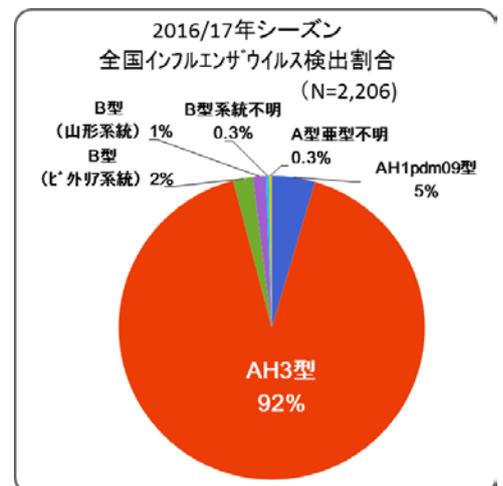
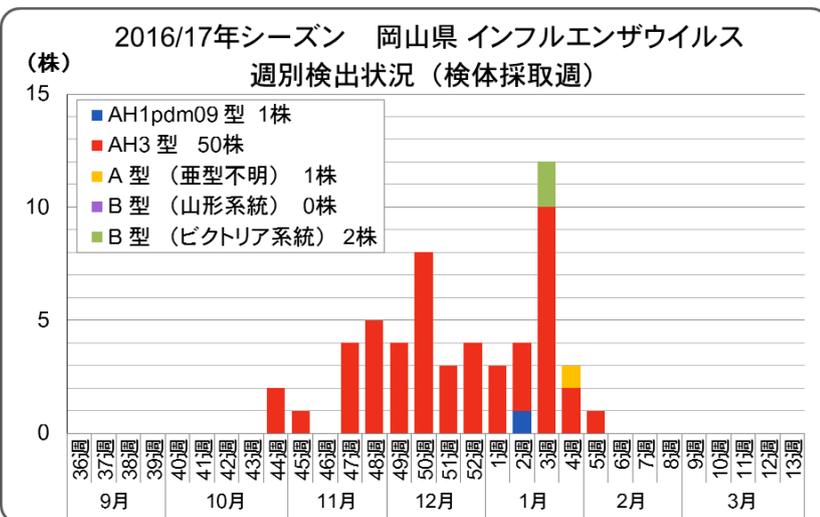


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

第6週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、3株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 50株（92%）、B型（ビクトリア系統）2株（4%）、AH1pdm09型 1株（2%）、A型（亜型不明）1株（2%）となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 92%、AH1pdm09型 5%、B型 3%〔ビクトリア系統 2%・山形系統 1%〕の順となっています。（2017年2月10日現在）

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2017年第3週(1/16～1/22)	2017/1/19	備中	幼児	女	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2017年第3週(1/16～1/22)	2017/1/19	備中	小学生	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスAH3型	2017年第3週(1/16～1/22)	2017/1/18	備中	中学生	男	



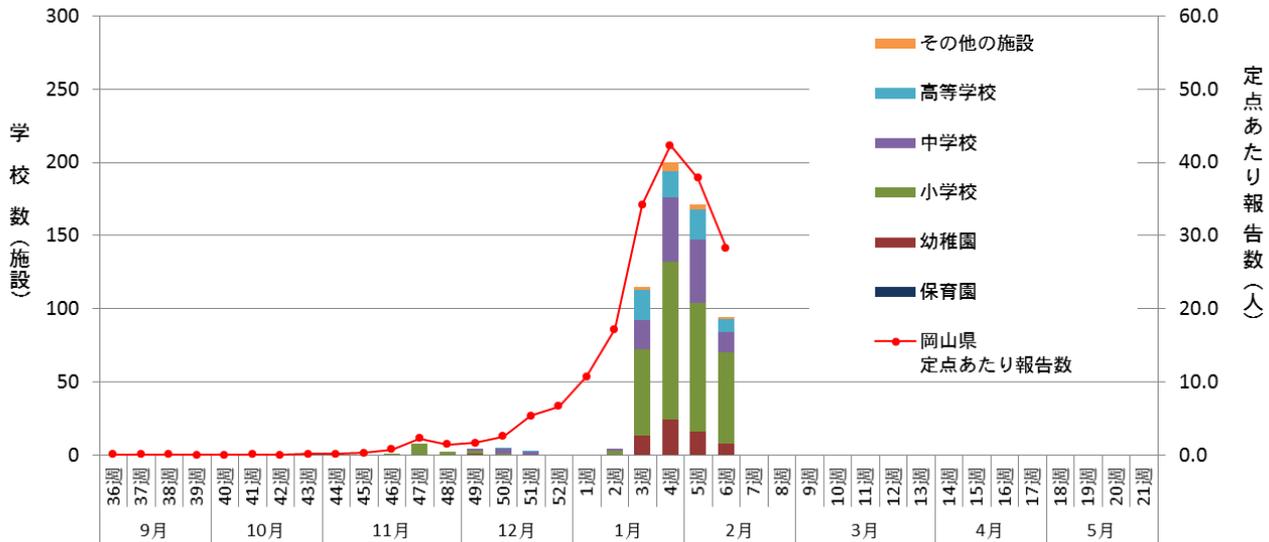
#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が94施設でありました。

##### 【第6週 臨時休業施設数】

▽岡山市	32	▽倉敷市	25	▽総社市	5	▽高梁市	5	▽津山市	4
▽玉野市	4	▽笠岡市	4	▽瀬戸内市	4	▽美作市	3	▽早島町	2
▽井原市	1	▽赤磐市	1	▽真庭市	1	▽和気町	1	▽里庄町	1
▽美咲町	1								

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業 週別発生状況



##### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	1294	9561	1008	7233	94	608	3	9	18	135	73	464	H28.11.2
岡山市	450	3512	339	2622	32	214	2	4	4	23	26	187	H28.12.12
倉敷市	317	2491	250	1938	25	156	—	—	2	16	23	140	H28.11.29
備前地域	152	1417	118	1130	11	97	0	1	2	33	9	63	H28.12.12
備中地域	165	1058	131	745	12	61	—	—	4	24	8	37	H28.11.2
備北地域	99	508	74	356	5	38	1	4	1	18	3	16	H28.11.21
真庭地域	13	61	12	51	1	6	—	—	1	3	0	3	H29.1.16
美作地域	98	514	84	391	8	36	—	—	4	18	4	18	H28.11.16

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

##### 2) 臨時休業施設数の内訳

第6週：94施設

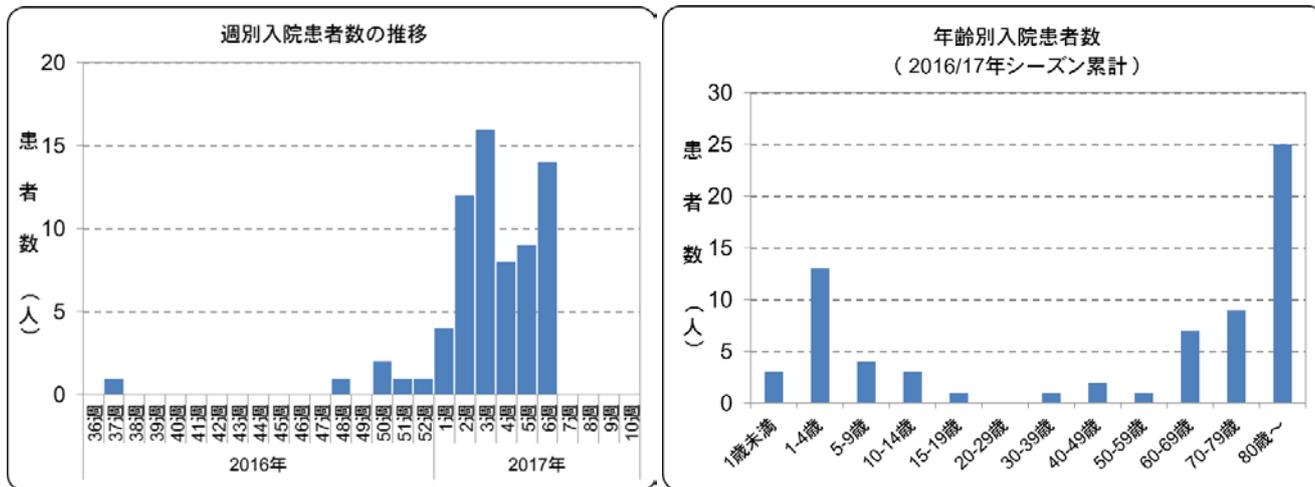
累計：608施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	8	62	62	334	14	128	9	72	1	12

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、14 名（1-4 歳 3 名、10-14 歳 1 名、30-39 歳 1 名、40-49 歳 1 名、60-69 歳 1 名、70-79 歳 1 名、80 歳以上 6 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 6 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数		3		1			1	1		1	1	6	14
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *								1				4	5
頭部 MRI 検査(予定含) *		1										1	2
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず		2		1			1			1	1	2	8

\* 重複あり

【2016 年 9 月 5 日以降に入院した患者の累計数】

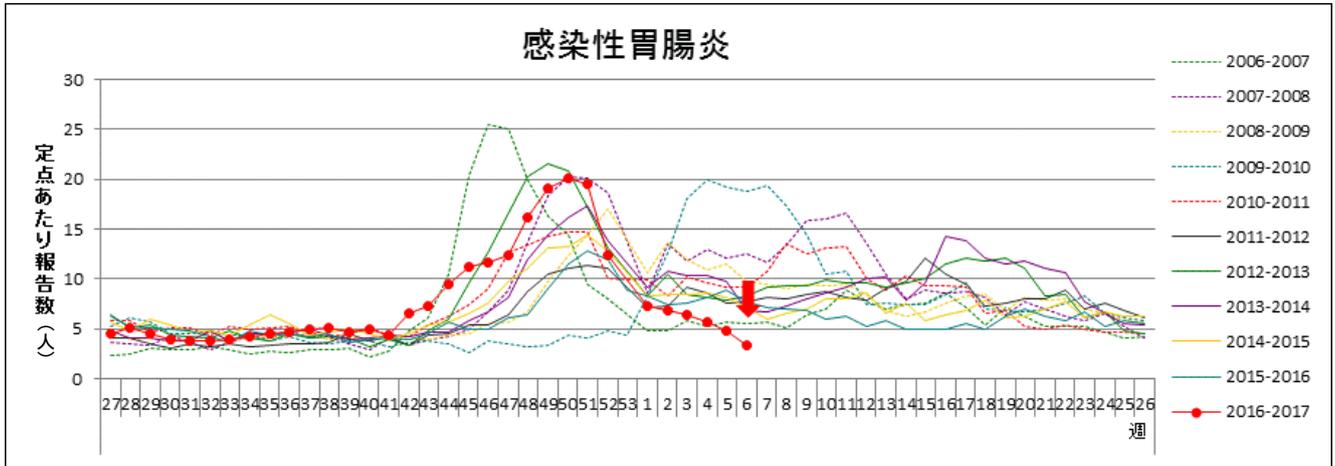
年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	3	13	4	3	1		1	2	1	7	9	25	69
ICU 入室 *			1								1	1	3
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *			2					1		1	1	8	13
頭部 MRI 検査(予定含) *		2	2									1	5
脳波検査 (予定含) *		1	1										2
いずれにも該当せず	3	10	2	3	1		1	1	1	6	8	17	53

\* 重複あり

# 感染性胃腸炎週報 2017年 第6週 (2月6日～2月12日)

## 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で182名（定点あたり3.37人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。

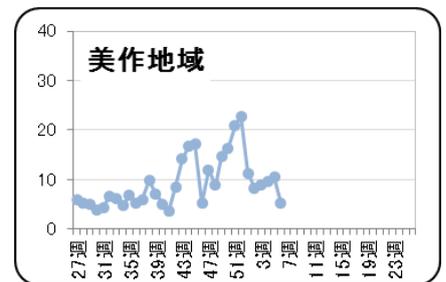
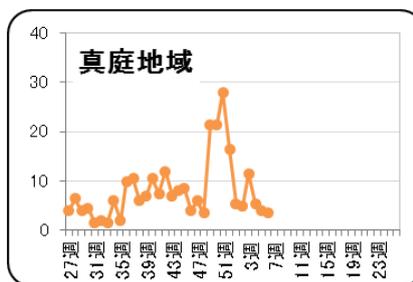
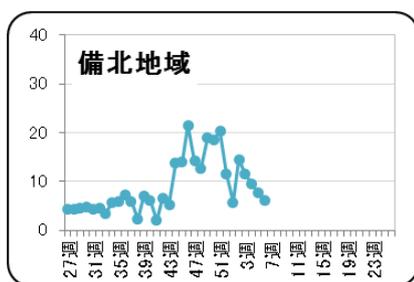
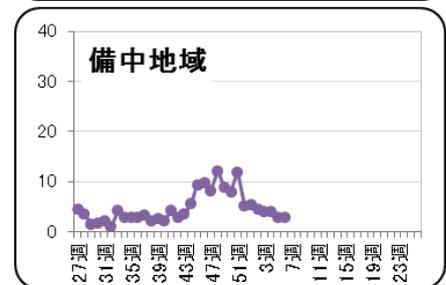
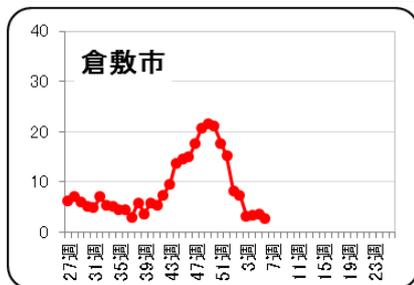
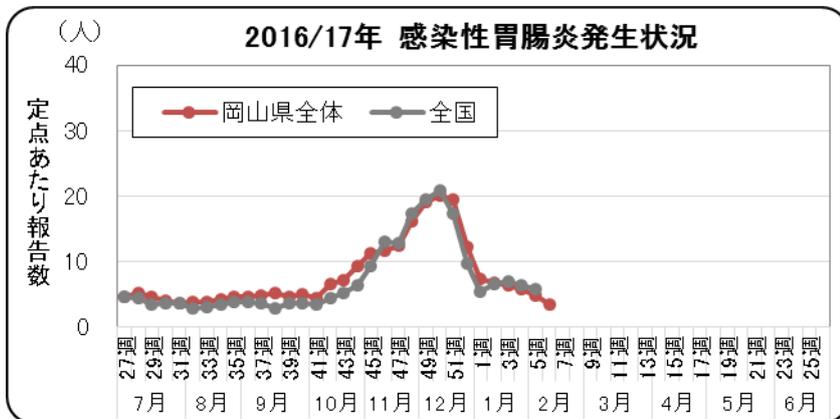


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で182名（定点あたり4.83→3.37人）の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少し、大きな流行は過ぎたと思われますが、流行シーズンはつづいています。

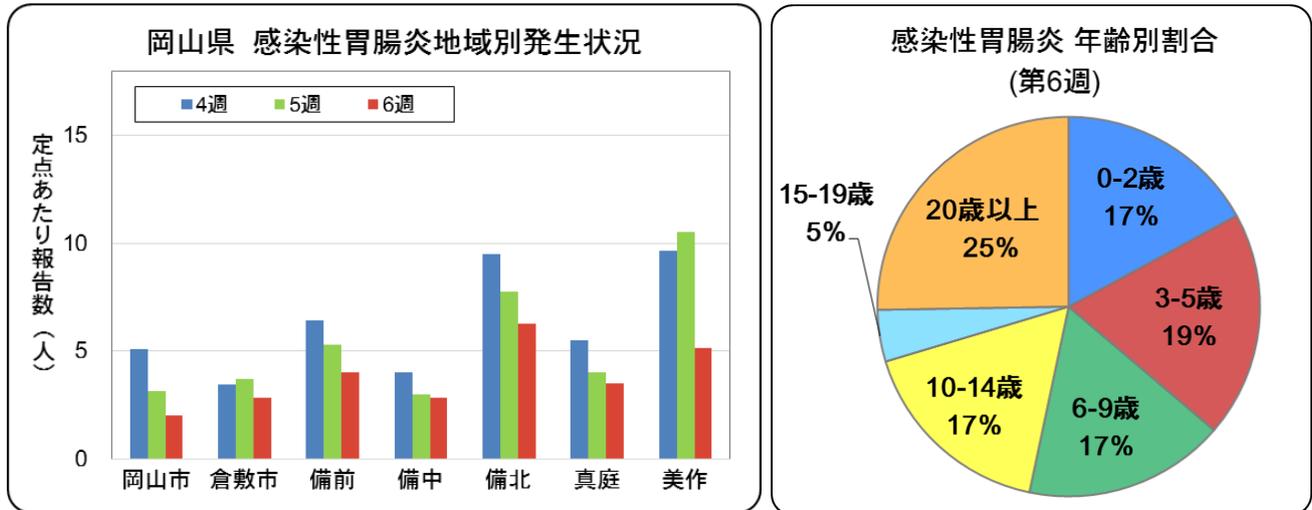
冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

## ◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、備北地域（6.25人）、美作地域（5.17人）、備前地域（4.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

第6周年齢別割合では、20歳以上 25%、3-5歳 19%、0-2歳・6-9歳・10-14歳 17%の順で高くなっています。



## ◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

### 予 防 方 法

#### 1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### 2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。

拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

#### 3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

#### 4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 6週(定点把握)

( 2017/02/06～2017/02/12 )

2017年2月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2376	28.29	493	22.41	764	47.75	272	18.13	323	26.92	186	31.00	73	24.33	265	26.50
RSウイルス感染症	12	0.22	4	0.29	6	0.55	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	35	0.65	7	0.50	5	0.45	1	0.10	5	0.71	-	-	-	-	17	2.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	6	0.43	9	0.82	7	0.70	19	2.71	7	1.75	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	182	3.37	28	2.00	31	2.82	40	4.00	20	2.86	25	6.25	7	3.50	31	5.17
水痘	15	0.28	4	0.29	5	0.45	-	-	2	0.29	-	-	2	1.00	2	0.33
手足口病	16	0.30	6	0.43	5	0.45	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	3	0.21	2	0.18	3	0.30	-	-	4	1.00	-	-	2	0.33
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	19	0.35	4	0.29	10	0.91	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	2	0.50	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2017年 6週(発生レベル設定疾患)

( 2017/02/06~2017/02/12 )

2017年2月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2376	28.29	493	22.41	764	47.75	272	18.13	323	26.92	186	31.00	73	24.33	265	26.50
咽頭結膜熱	35	0.65	7	0.50	5	0.45	1	0.10	5	0.71	-	-	-	-	17	2.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	6	0.43	9	0.82	7	0.70	19	2.71	7	1.75	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	182	3.37	28	2.00	31	2.82	40	4.00	20	2.86	25	6.25	7	3.50	31	5.17
水痘	15	0.28	4	0.29	5	0.45	-	-	2	0.29	-	-	2	1.00	2	0.33
手足口病	16	0.30	6	0.43	5	0.45	4	0.40	1	0.14	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	19	0.35	4	0.29	10	0.91	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	2	0.50	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2017年 第6週 2017/02/06～2017/02/12 )

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	2376	7	27	78	94	97	102	115	146	112	103	93	354	128	161	184	180	118	133	60	84

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	12	1	1	4	1	-	3	1	1	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	35	1	-	5	4	10	4	3	4	1	-	1	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	-	-	-	3	3	10	3	11	5	6	1	10	-	1
感染性胃腸炎	182	1	8	12	10	10	8	17	16	3	8	4	31	8	46
水痘	15	1	2	2	-	1	1	3	-	2	1	-	2	-	-
手足口病	16	1	-	5	5	2	1	-	-	-	-	-	2	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	1	2	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	19	-	-	1	2	3	1	3	3	2	1	1	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	1

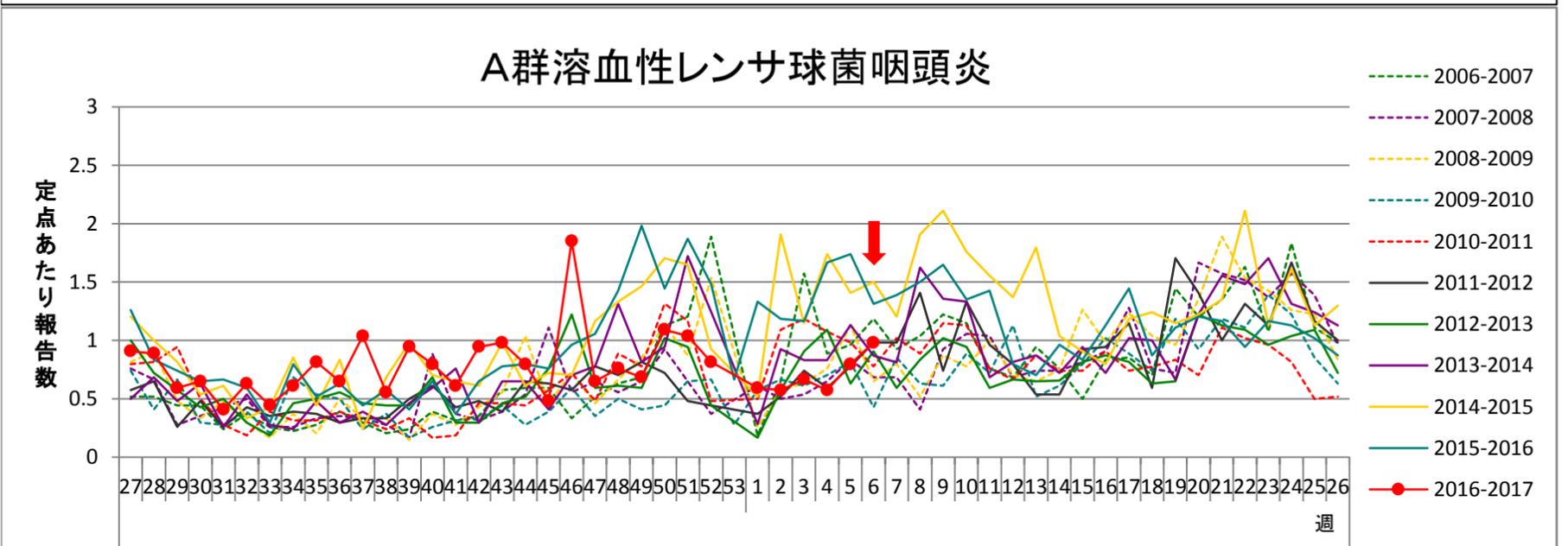
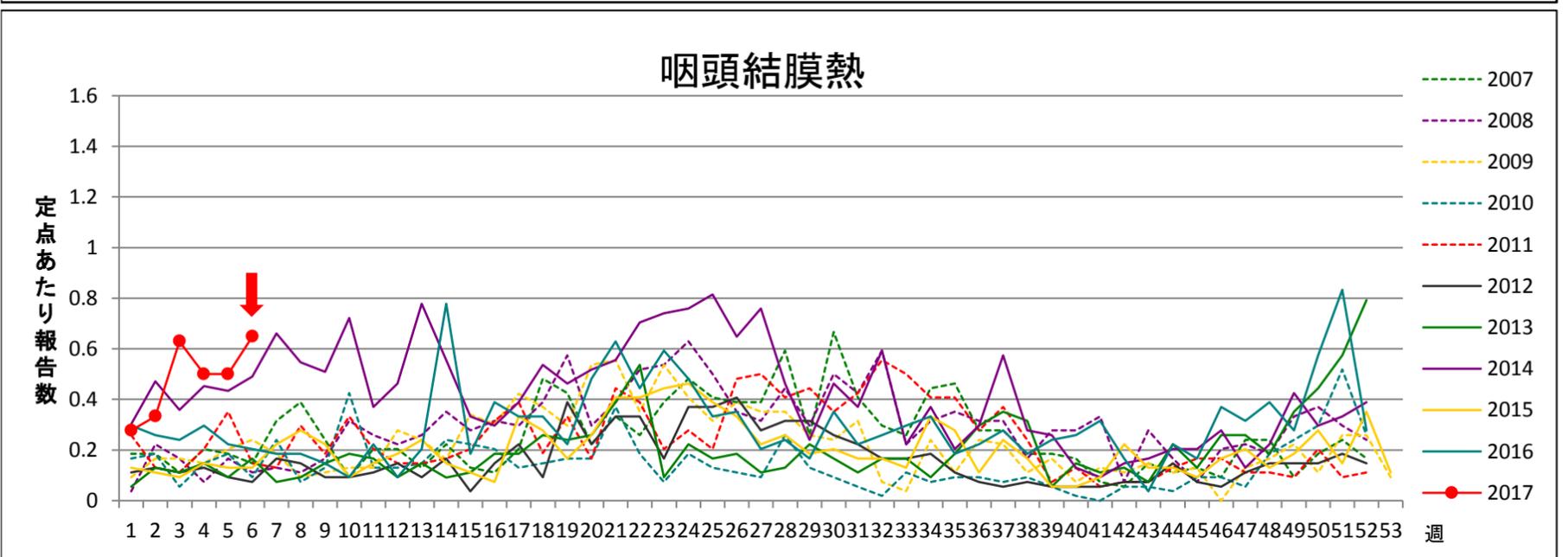
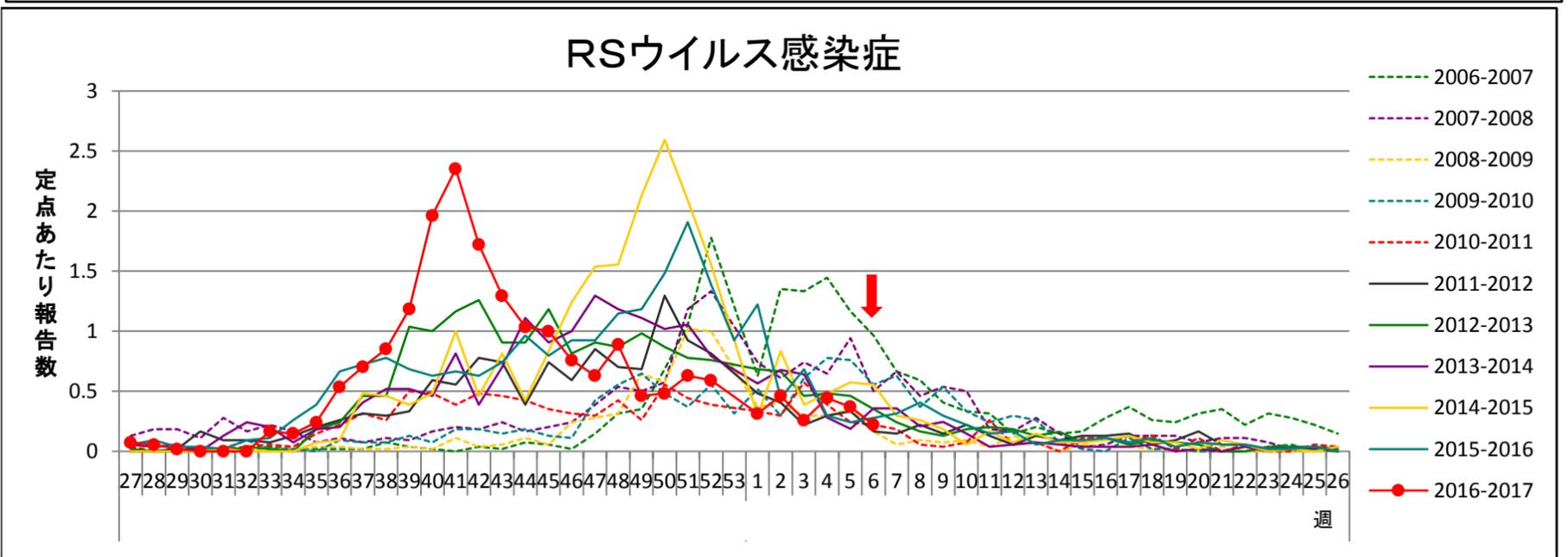
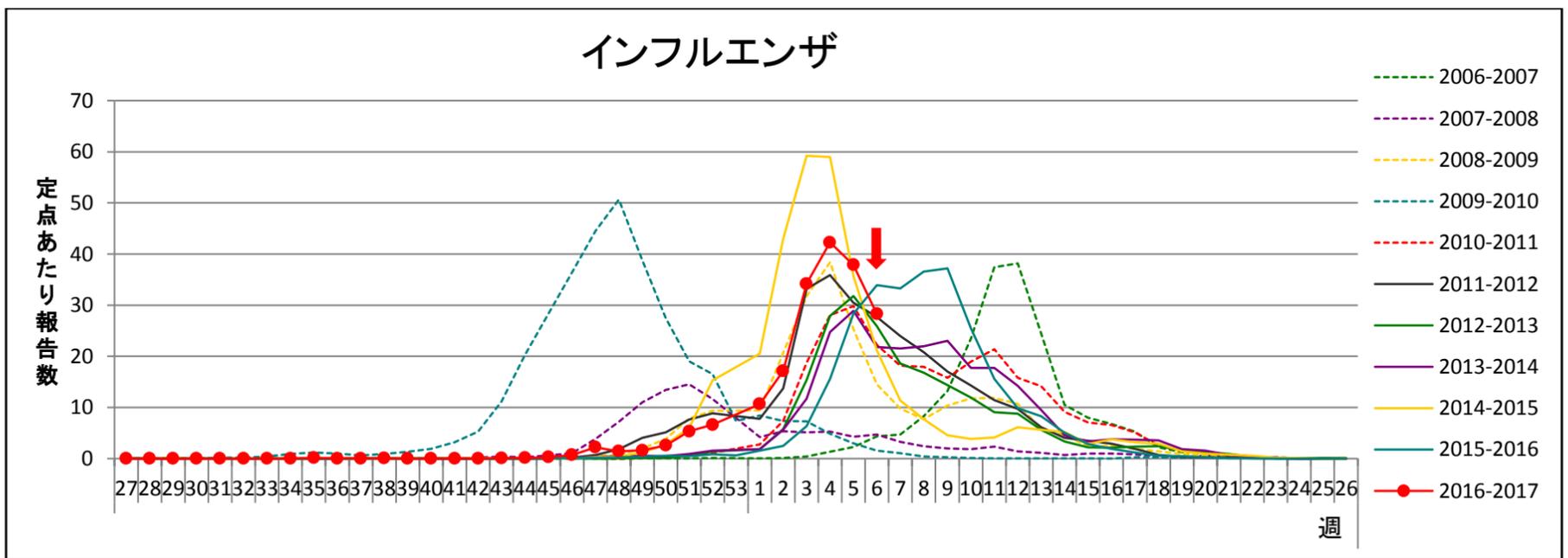
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

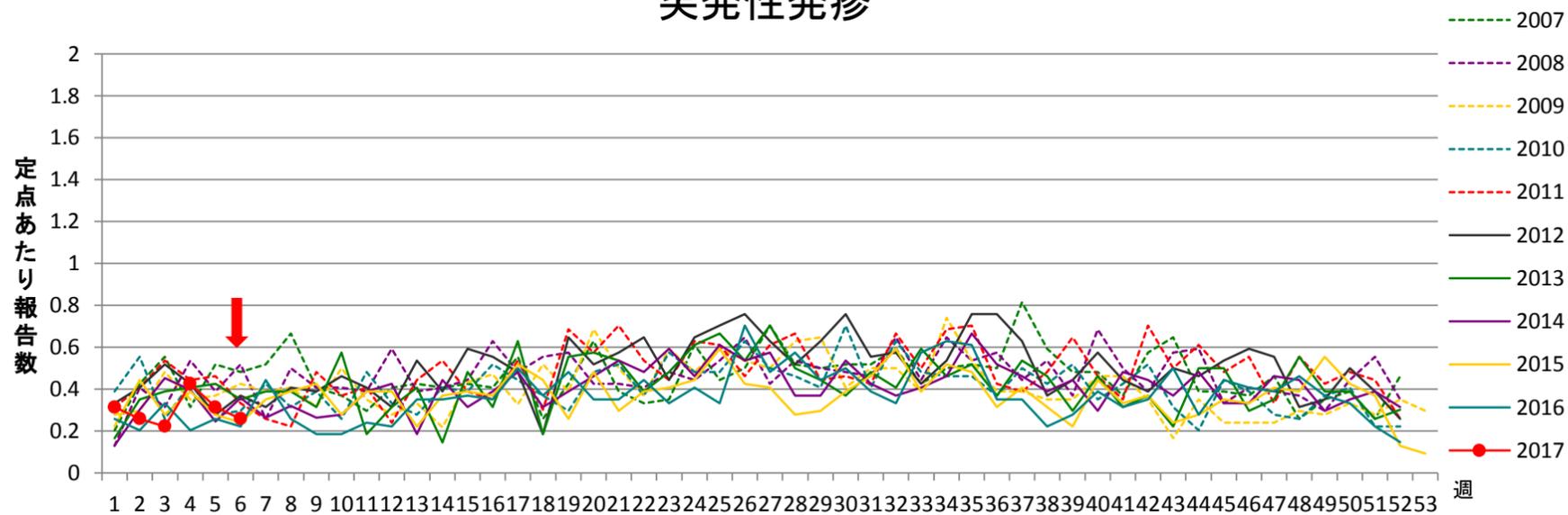
2017年 6週

分類	疾病名	2017			疾病名	2017			疾病名	2017		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	41	311	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	65
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	3
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	-	4
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	3	26
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	-	18	ウイルス性肝炎*3	1	1	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	-	28
	急性脳炎*4	-	1	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	8	後天性免疫不全症候群	-	2	12	ジアルジア症	-	-	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	32
	水痘(入院例に限る。)	-	1	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	6	40
	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	2	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-

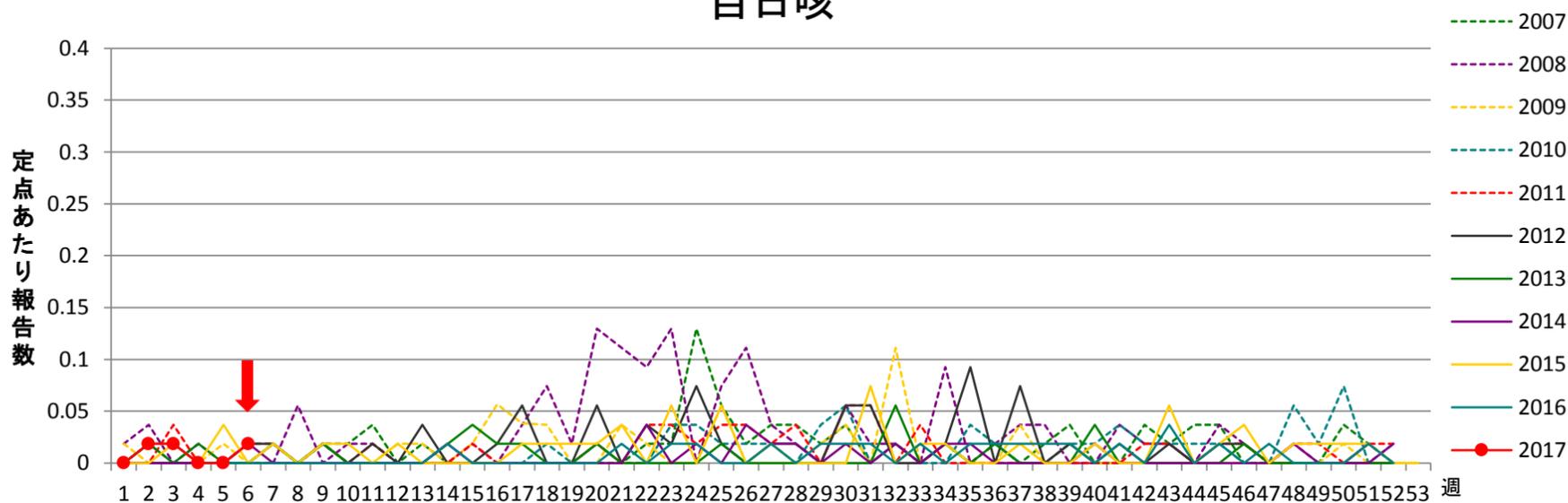




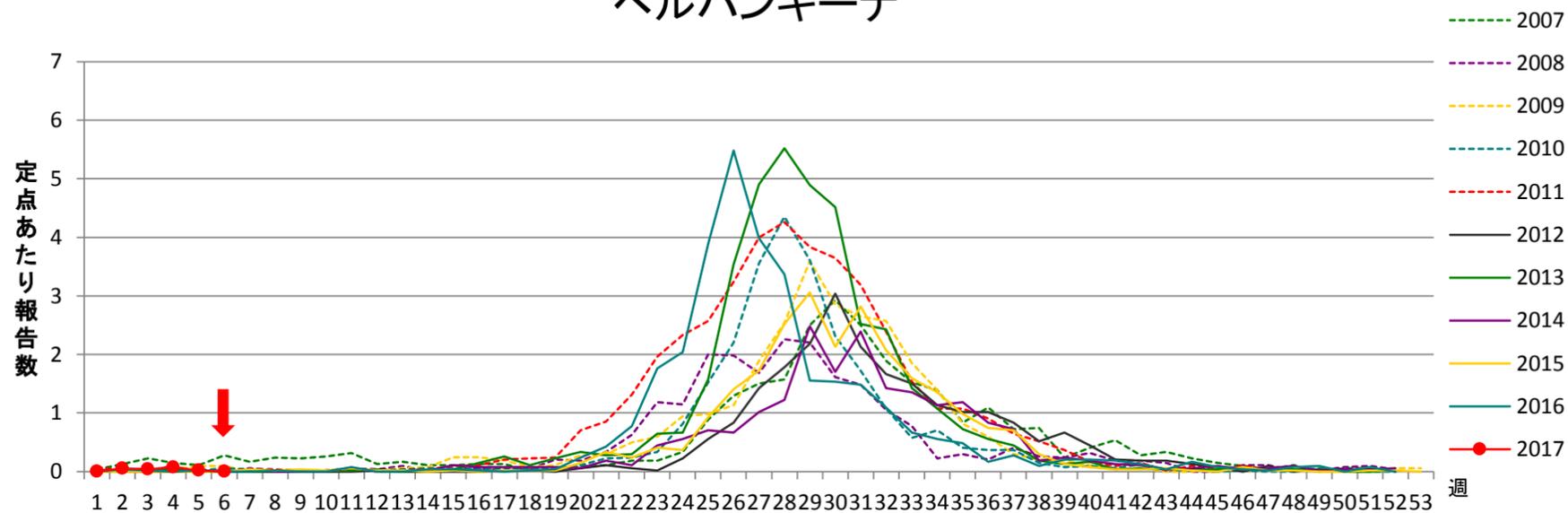
### 突発性発疹



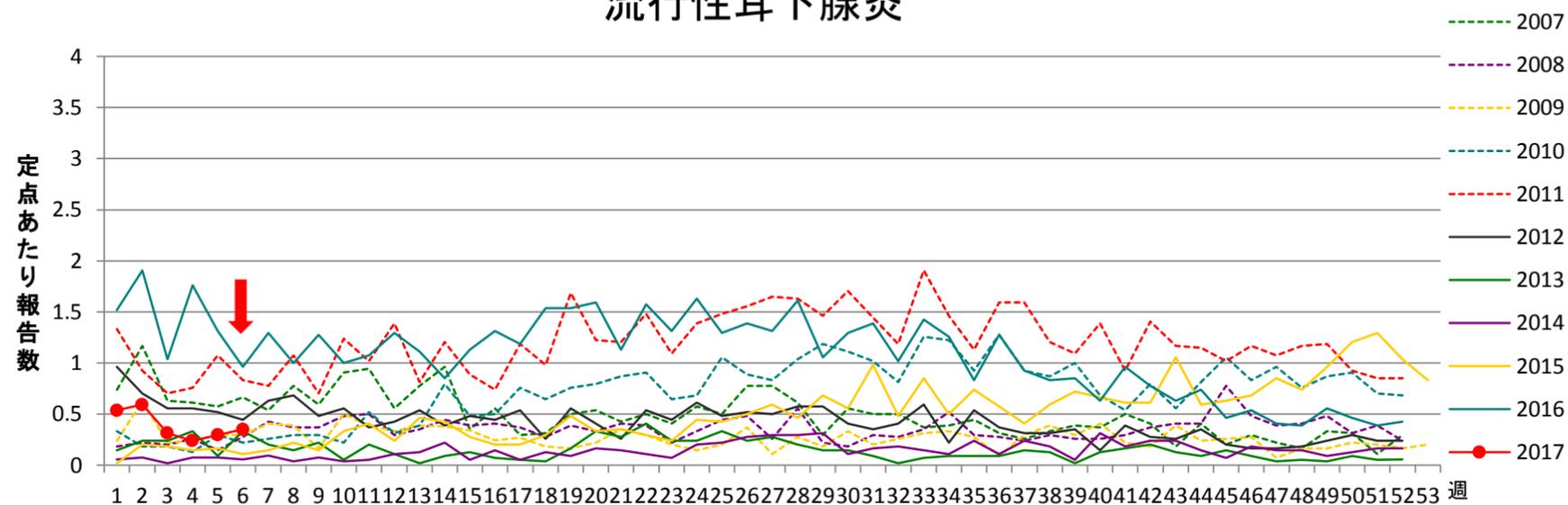
### 百日咳



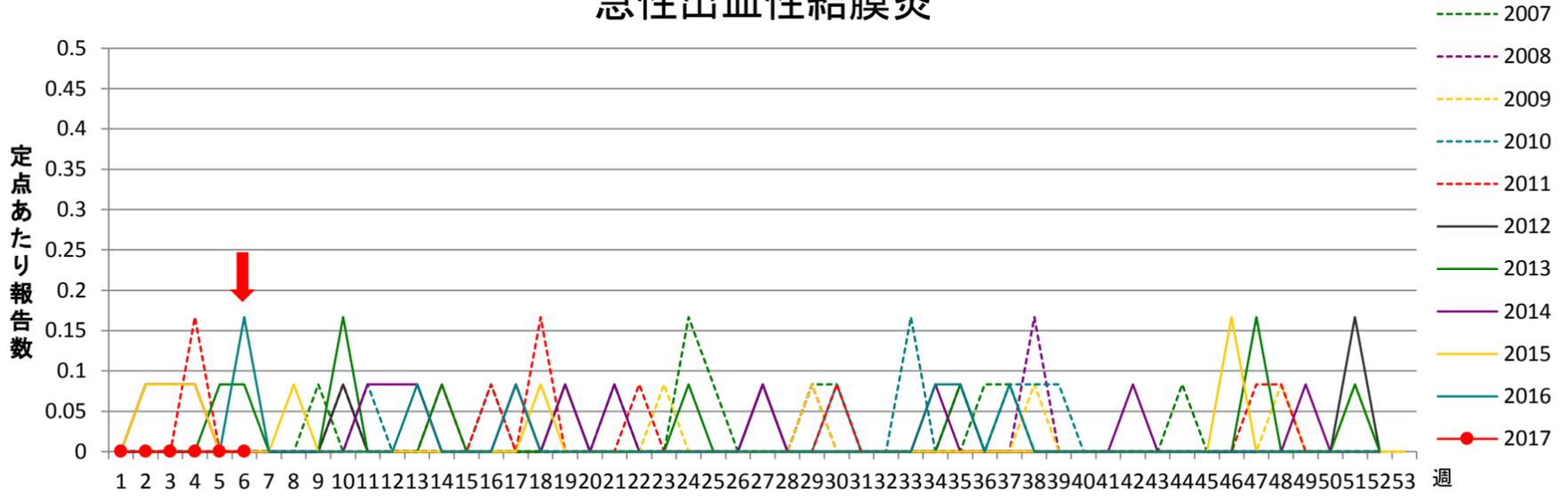
### ヘルパンギーナ



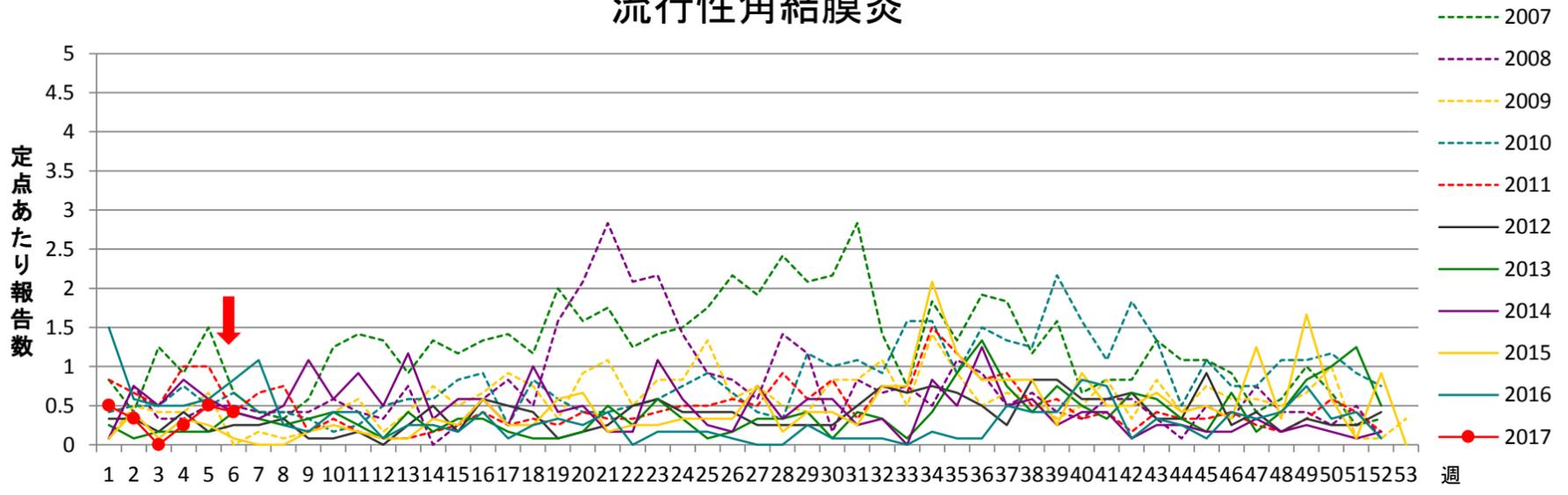
### 流行性耳下腺炎



### 急性出血性結膜炎



### 流行性角結膜炎



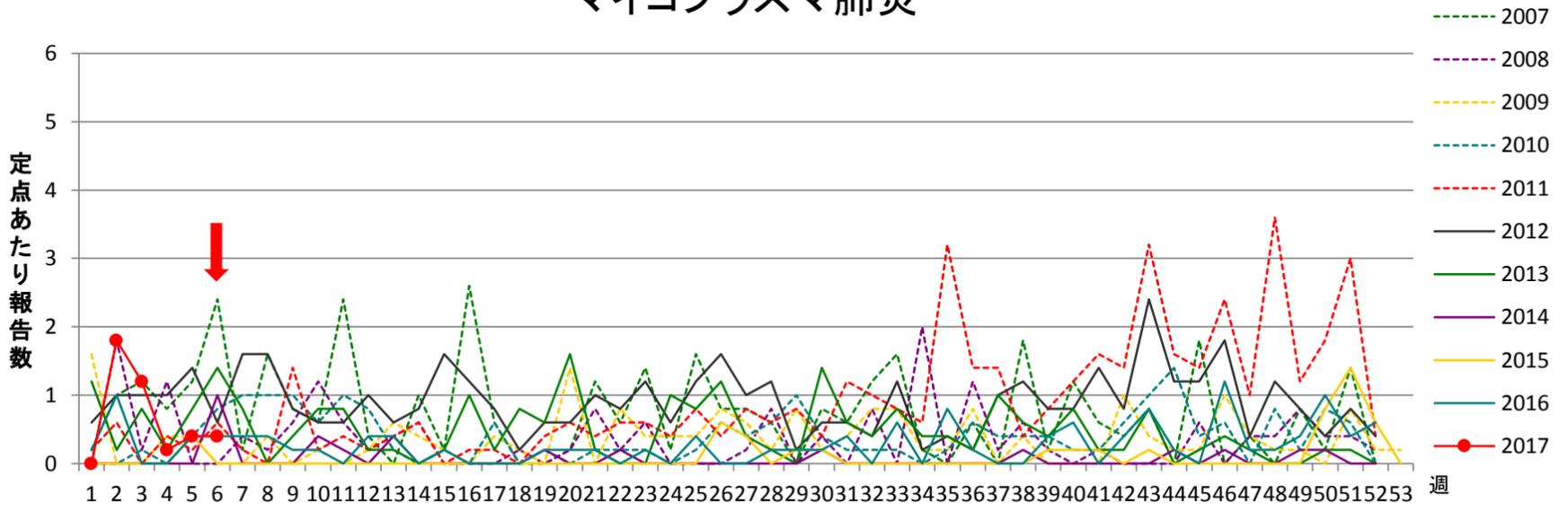
### 細菌性髄膜炎



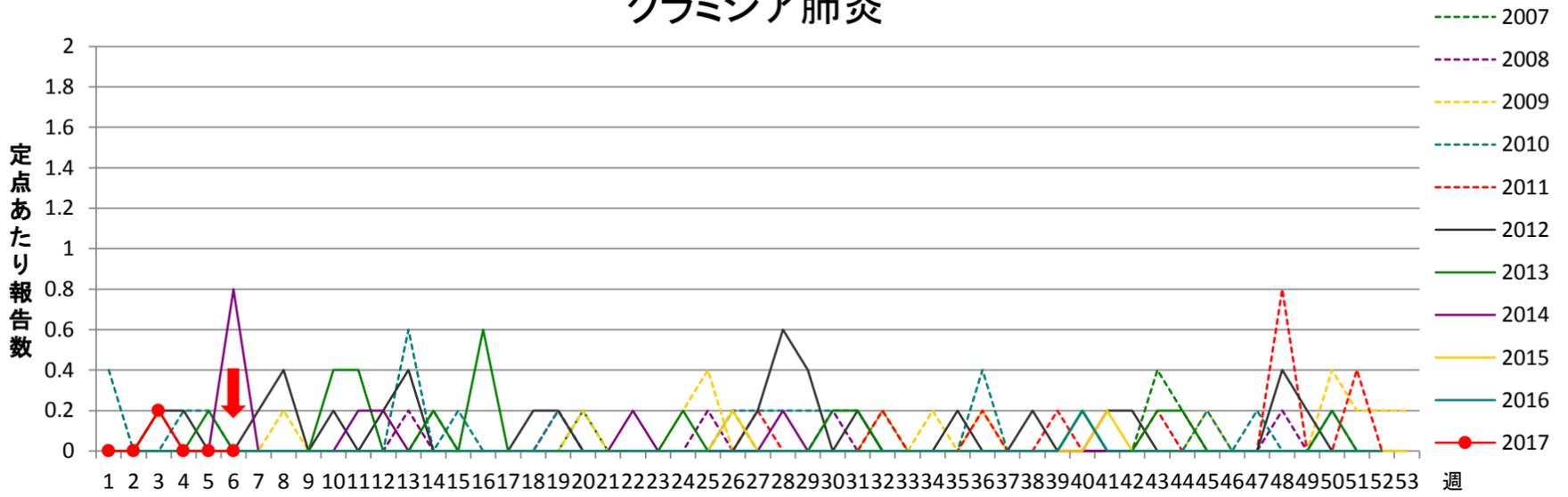
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

